



ゆうメール

拝啓

新年度を迎えると同時に「まん延防止等重点措置」が適用されました。先行きはいまだ不透明となっていますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

2020年度を振り返ると、新型コロナウイルスによる影響を大きく受けた1年だったとあらためて思います。演劇ワークショップ（以下、WS）の中止など、さまざまな変更を余儀なくされましたが、同時に、この状況下でも、演劇WSを必要としてくださる方の多さに励まされました。

中止していた事業を再開したのは、2020年6月17日。5月25日の緊急事態宣言解除をうけてすぐのことです。『デイ・イン・ザ・シアター（以下、デイ）』からスタートしました。6月に全16回、7月に全10回の『デイ』を開催しましたが、多くの方々からお申し込みをいただきました。人と会えない「つかれ」は心身を蝕み、人に会う「つかれ」は心身を蘇らせてくれることを知る機会となり、演劇WSの活動を止めてはいけないことを、ありがたくも実感しました。

8月は夏休み子どもWSを小学生から高校生ままで17回実施しました。暑い最中にマスクを着用するなど、さまざまな制限がありましたが、それでも、そこに集まった参加者同士が協力し合って作業することを、心から喜んでいる姿を垣間見ました。9月以降は、区内小中学校訪問プログラム『かなりゴキゲンなWS巡回団』への依頼もあり、学校での活動も少しずつはじまりました。10月からは、高齢者を対象としている「下馬地区アートプロジェクト」も始動しています。家に引きこもっているだけだと心身の健康を害していってしまうと、町内会の方たちが実施の決断をしてくださいました。

加えて、パブリックシアターが人材育成事業で行っている「SPTラボ」も、『コロナ時代に改めてWSの有り様について考えるクラブ』と『絵本読み聞かせ』の2つの研究グループが立ち上がり、活発な議論を交わしました。

これらの活動を通して感じるのは、マスクをつけ、人との密を気にしながら、さまざまな制限を受け入れている私たちは、自分たちが思っている以上に心と身体をこわらせているということです。

しかし、演劇WSを通じて他の人の身体や声を受けとり、そして自らも手渡すことで人と共に生きる身体を取り戻していくようにも思いました。オンラインも当たり前になりつつありますが、人と人が集うことの大切さを感じています。

2021年度も世田谷パブリックシアターならではの事業を行っていきたいと思います。

今後とも何卒よろしく願いいたします。

敬具

世田谷パブリックシアター 学芸事業の今後の予定（4月）

3月31日時点

**4月**

- 3日(土) 演劇WSラボ ラボ生自主企画「ディスタンスクラブ 対面ゲーム開発班」(演劇WS専門家育成)
- 5日(月) 『デイ・イン・ザ・シアター～24回目の劇場のお誕生日』①/② (劇場で行う誰でも参加できる短時間のWS)
- 12日(月) 演劇WSラボ「絵本読み聞かせクラブ①」(演劇WS専門家育成)
- 24日(土) 演劇WSラボ ラボ生自主企画「ディスタンスクラブ 対面ゲーム開発班」(演劇WS専門家育成)

【取材・企画に関するお問合せ】

世田谷パブリックシアター 学芸：恵志 九谷 塩原 石川  
TEL 03-5432-1526 FAX 03-5432-1559



3月

- 1日(月) ○ かなりゴキゲンなWS巡回団@烏山小学校1年 地域連携  
(進行役:とみやまあゆみ)  
演劇WSラボ その他  
19:30~21:30 ラボ生自主企画「ディスタンスクラブ オンライン班」
- 2日(火) ○ かなりゴキゲンなWS巡回団@九品仏小学校1年生 地域連携  
(進行役:富永圭一)  
かなりゴキゲンなWS巡回団@九品仏小学校2年生 地域連携  
(進行役:すずきこーた)
- 3日(水) ○ 下馬地区アートプロジェクト『だれでも表現クラブ・極楽』 地域連携  
14:00~16:00 だれでもできる「点と線の絵本」作り  
(進行役:花崎攝、長峰麻貴)
- 6日(土) ○ 入学前親子のための“ホッ”とプログラム@弦巻小学校PTA 地域連携  
10:00~12:00 はじめての学校、遊びに来ない? (進行役:有吉宣人、大道朋奈)
- 7日(日) ○ 小学生のためのえんげきWS (6/8回目) 劇場  
13:00~17:00 『下馬のゆうじさんをめぐる冒険』  
(進行役:柏木陽、中村マミコ)
- 11日(木) ○ 地域の物語(大人チーム)中間発表 劇場  
14:00~16:00 『生きること死ぬことをめぐる冒険 in 下馬』  
(進行役:阿部健一、開発彩子、花崎攝、金川晋吾)
- 13日(土) ○ 小学生のためのえんげきWS (7/8回目) 劇場  
13:00~17:00 『下馬のゆうじさんをめぐる冒険』  
(進行役:柏木陽、中村マミコ)
- 14日(日) ○ 小学生のためのえんげきWS (8/8回目) 劇場  
13:00~17:00 『下馬のゆうじさんをめぐる冒険』  
(進行役:柏木陽、中村マミコ)
- 20日(土) ○ 小学生のためのえんげきWS(リハーサル) 劇場  
10:00~17:00 『下馬のゆうじさんをめぐる冒険』(進行役:柏木陽、中村マミコ)
- 21日(日) ○ 「地域の物語 2021 一生きること死ぬことをめぐる冒険」演劇発表会 劇場  
14:00~17:00 子どもたちの『下馬のゆうじさんをめぐる冒険』  
下馬地区の高齢者のかたたちとの『生きること、死ぬことをめぐる冒険』 レポート  
(進行役:柏木陽、中村マミコ、阿部健一、開発彩子、金川晋吾、花崎攝)
- 23日(火) ○ かなりゴキゲンなWS巡回団@緑丘中学校2年生 地域連携  
(進行役:すずきこーた)
- 25日(木) ○ 下馬地区アートプロジェクト『だれでも写真クラブ・極楽』 地域連携  
14:00~16:00 ポートレート撮影会 in 下馬 あなたの写真お撮りします! (進行役:金川晋吾)  
今回の写真クラブでは、進行役の写真家金川晋吾さんが、下馬地区にお住まいの高齢者の方たちのポートレート撮影を行いました。被写体となる体験をすることで、写真を違う角度で感じたり、自分の知らない自分自身に気づいていただけたらと思ってる企画です。いらしてくださった方それぞれのお気に入りの場所を歩き回りながら、おしゃべりし、リラックスしながら思い出を伺う中で、みなさんの日常や人生を切り取る写真がたくさん記録されました。  
デイ・イン・ザ・シアター 劇場  
▶10:30~12:30 私の水曜日編(進行役:青山公美嘉)  
▶15:00~17:00 私の水曜日編(進行役:青山公美嘉)  
今回の『デイ』は水曜日でした。そこで週の真ん中において、なんとなく平凡代表みたいな水曜日を主役に演劇を作りました。まずは、「お母さん」「怒った」「ケーキ」のように、水曜日に起こった出来事を単語で書き出します。たくさん書き出した単語からベスト5を選び、紙に書いてシャッフル。くじにして引いた単語から「誰かの水曜日」を想像しながら日記を書きます。その日記を2人1組で、日記を読む人、動きを表現することに分かれて演劇にしました。
- 26日(金) ○ 演劇WSラボ その他  
19:30~22:00 ラボ生自主企画「ディスタンスクラブ オンライン班」
- 27日(土) ○ ごちゃまぜ演劇WS2021 劇場  
▶27日 14:00~16:00 「ステータス」を表現する(進行役:金谷奈緒)  
▶28日 10:30~12:30 「ステータス」を表現する(進行役:金谷奈緒)
- 28日(日) ○ 小学1年から22才までがごちゃまぜになって行う恒例演劇WS。今回はグループごとに一人ずつトランプのカードを引き、数が多い人がより「ステータス」が高いことを、簡単なやりとりで即興的に表すゲームを楽しみました。「えらい/えらくない」からはじめ、「優しい」「怖い」など幅を広げて行いました。その後、「ステータス」が表現された場面づくりに挑戦。進行役からのお題(弁当箱の中や動物園など)と、一人ひとりに割り振られた「ステータス」をもとに、奇想天外な物語を創作しました。
- 29日(月) ○ 演劇WSラボ その他  
19:30~21:30 ラボ生自主企画「ディスタンスクラブ オンライン班」



「オノマトペ(擬音、擬声、擬態語など)」を身体で表現した後で、「点と線の絵本」を作り、抽象的な感覚を使う作業は、いつもの自分とは違う自分と呼び覚ましたようです。「やっぱりこういうのは無意識でつくるのがいいわよ!」などと言いながら仕上げた作品は、さまざま、その人の意外な一面を見る機会となりました。

「ここにいるお友達は4月からずっと一緒にいるお友達だよ」というと、子どもたちは「えー!!そんなことあるの?」と驚いていました。園では卒業したらばらばらになる、と言われている子ども達にとって、入学前のこの時期に、これから一緒にいる友達とやりとりできる時間は貴重だと感じました。



参加者の思い出の木を背景に撮影しました



2人1組になって、演劇に立ち上げます



自分の「ステータス」を相手の反応でさぐる

レポート



『地域の物語 2021』では、三軒茶屋駅から徒歩15分の都営下馬アパート(以下、下馬団地)を中心とした下馬地区で展開している「下馬地区アートプロジェクト」を出発点に、プロジェクトで出会った方たちの人生から演劇づくりを試みました。このプロジェクトは、2019年度からNPO法人演劇百貨店と世田谷パブリックシアターが共同で実施しているものです。

下馬団地は、戦後、兵舎跡地に被災者が移り住んだことにその起源を持ちます。高度成長期に建て替えが始まり、1964年東京オリンピックの頃はモダンな団地ライフが展開されました。下馬団地では、高齢化が急速に進み、高齢者の孤立や孤独死、地縁やコミュニティの喪失などの地域課題が多く浮上しています。2021年東京オリンピックを迎える今、下馬団地、そしてその地で日本の戦後の歴史と共に生きてこられた方の人生に寄り添うことには、これから、超高齢化社会を迎える東京や日本が、どのような社会を築いていくべきかを考えるヒントがあると感じています。

発表会に向けては、「大人チーム(『生きること、死ぬことをめぐる冒険』)」と「子どもチーム(『下馬のゆうじさんをめぐる冒険』)」との2チームにわかれて作業を進めました。各チームのプロセスや内容は以下の通りです。

下馬地区の高齢者のかたたちとの『生きること、死ぬことをめぐる冒険』

1月9日(土)~3月21日(日)  
出演:阿部健一、有吉宣人、開発彩子、金川晋吾、とみやまあゆみ、花崎攝、山本雅幸  
進行:阿部健一、開発彩子、花崎攝/写真:金川晋吾

『生きること、死ぬことをめぐる冒険』では、プロジェクトに加わって下さったアーティスト4名の方たちが下馬地区の高齢者の方たち8名に、おひとりずつ個別にライフストーリーを伺うことから始めました。ご協力くださったのは、下馬地区で実践していたワークショップ(『だれでも表現クラブ・極楽』『だれでも写真クラブ・極楽』)で出会った皆さんです。伺ったお話しは、一人称の語りのかたちに書き起こしていく「聞き書き」という形にまとめていきました。

それと並行して、団地内の集会所で、「大~きな下馬の地図をつくらう!」という2日間のプロジェクトも企画。床に大きな下馬の地図を広げ、「下馬の思い出」を付箋に書き出して地図上に貼っていただく中、集まって下さった方たちの複数の記憶が交差して、下馬地区の歴史が集積した地図が作りあげられていきました。

皆さんに文章を確認していただき、中間発表などを行いました。それは、下馬地区の歴史を踏まえながら台本へと構成していく作業となり、人生の先にある死、また死に向かう前の生の問題を行き来しながら、地域コミュニティの有り様を模索していくプロセスとなりました。

最終日の3月21日の発表会には、下馬団地からも多くの高齢者の方たちがいらしてくださいました。4名のアーティストに3名の俳優が加わり、朗読と写真家金川晋吾さんの撮影した今の団地、そして壊されている団地の写真を映しだしながら、後半は観客のみなさんと「死」についての考察も行っていこうな場となりました。



「大~きな下馬の地図をつくらう!」の様子



中間発表1回目



中間発表2回目(シアターゲーム風景)



中間発表後座談会の様子

▲事前WSの様子



▲写真家 金川晋吾氏の団地写真



聞き書きをもとにつくった場面



写真家・金川晋吾氏と写真作品



死について語る場面



シアターゲーム

▲発表会当日の様子



## 子どもたちの『下馬のゆうじさんをめぐる冒険』

1月30日(土)～3月21日(日)

(進行役：柏木陽、中村マミコ)

『下馬のゆうじさんをめぐる冒険』では、世田谷区内在住の小学生が、同じ区内の下馬地区に暮らす脳性麻痺の車椅子ライダー実方裕二さん(ゆうじさん)からお話を聞き、8回のワークショップ(以下、WS)をつみかさねて演劇作品をつくりあげ、シアターラムで発表することに取り組みました。

## 初日(1月31日)

稽古場に集まったのは小学3年から6年生までの12人と、進行役、劇場スタッフ、そしてゲストのゆうじさんです。ゆうじさんも「ゆうちゃん」としてWSに参加します。子どもも大人も一緒になって身体を動かしたっぷり遊んだ一日となりました。

## 2日目(2月6日)

じっくりとゆうじさんのお話を聞きました。ゆうじさんが生まれたときのことや、これまでで一番嬉しかったことのお話をすると、子どもたちはときおり「えー！」と驚きの声をあげていました。路上でケーキ販売をされているゆうじさんから実際にケーキを買ってみたり、子どもたちからも質問をしたりした後で、いよいよシーンづくりに。お話を聞いて印象に残った出来事を選び、子どもたち自身でアイデアを出し合って作っていきます。出来上がったのは「生まれたときのこと」「はじめて自分の声をきいたとき」「はじめてケーキが売れたとき」。演劇をやったことがないという子どもたちがほとんどですが、悩みながらも集中し頑張っていました。

## 3日目以降(2月20日～3月20日)

「家族のこと」「小中高での生活」「作業所時代」「一人暮らしのきっかけ」「一緒になると約束した人のこと」など、ゆうじさんの人生の様々な場面をシーンとして立ち上げていきました。その中で湧いてきた疑問や聞いてみたくなったことはその都度ゆうじさんに尋ね、またさらにシーンを作ったり、作り直したりということを繰り返して進めていきました。

## 発表会当日

そうして迎えた発表会当日。子どもたちは緊張でそわそわ落ち着かない様子でしたが、いざ本番が始まり舞台に立つと、とてもいきいきと演じていました。それは稽古場で練習していたときよりも堂々としていて、目の前の観ている人に伝えようという強い気持ちが伝わってくるものでした。本番が終わると、ゆうじさんを交えてのアフタートークへ。観客からゆうじさんと出会った感想を質問されると、あるひとりの子は「はじめは障害のある人は後ろ向きなのかと思っていたけど、ゆうじさんは前向きだった」と伝えてくれました。

WSではゆうじさんのお話をきっかけとして、子どもたちが自分自身のことを振り返る機会をたくさん作りました。出来上がった作品も、ゆうじさんの物語を紡ぎつつも、子どもたちの思いや発見が立ち現れてくるものとなりました。ゆうじさんとの出会いから発表までのプロセスの中、子どもたちの中に様々な思いが生まれてきたことでしょう。ここでの経験が、このさきの子どもたちの糧となることを願っています。



言葉や音の響きを身体で表現しました



ゆうじさんからお話を聞きました



ゆうじさんからケーキを買ってみました



「たるまさんがころんだ」で遊びました

▲WSの様子



ゆうじさんが生まれる場面



ゆうじさんがケーキを売る場面



ゆうじさんのお気に入りの曲でフィナーレ

▲発表会当日の様子

